

「会員短信 7」

「私と滑稽俳句」 高田敏男

私と滑稽俳句との出会いは、平成十八年頃、本阿弥書店の月刊誌『俳壇』の、八木健会長の「微苦笑俳壇」欄への投句からです。地元の俳句仲間からは川柳と間違われることも有りましたが、句会の先生だけは私の滑稽俳句を理解して下さり心強かったです。

さて、私が最初に八木会長にお会いしたのは、平成二十一年三月、浅草・木馬亭で開催の滑稽俳句協会の設立総会に出席させていただいた時です。昼食後、舞台上上がり、皆様の前で挨拶をし、緊張しながら即興の俳句などを披露しました。本の中でしか知らない皆様のお名前とお顔が一致し、お話もユニークで、大変盛り上がりました。最後には、八木会長の浪曲「虎造節」で感銘致し、大満足で帰路に着いたのを覚えています。

あれから十年、『俳壇』の投句欄では光栄にも年間賞を二回頂きましたが、その後なかなか良いアイデアが浮かびません。やはり、真面目すぎる句、正直すぎる句、賢すぎる句は、滑稽俳句にはなりません。しかし、ある時、言葉を少し変えただけで面白い句が出来たことがあり、以来、この時の感覚を磨いていくよう心掛けています。

頭の体操になり四季の移ろいに味をつけてくれる滑稽俳句を、これからも楽しんでいきたいです。

万愚節時刻通りの汽車が来る
先輩を渾名で覚え新社員
バカの数踏んで人生文化の日